

## アクションプラン2024 用語集

用語の名称	用語の解説
干渉SAR	合成開口レーダー（SAR：Synthetic Aperture Radar）を活用し、地表面の変動を把握する技術。具体的には、人工衛星等に搭載されたSARセンサーを用いて同じ場所を2回観測し、その反射波の位相差を取ることで（干渉）によって2回の観測の間の地表面の変動を把握する。この解析で得られる画像をSAR干渉画像という。
干渉SAR時系列解析	多数のSAR干渉画像を統計的に処理することにより、SAR干渉画像に含まれる大気や軌道誤差に起因する誤差を低減することで、SAR干渉画像では捉えることが困難な微小な変動とその時間変化を捉えることができる解析手法。
国家座標	ある国の測量の基準に準拠した経緯度、平面直角座標、標高等の座標であって、一定の精度が保証され、共有によって利便性が高まるとともに、重複投資の排除等につながるもの。
作業規程の準則	測量法第34条の規定に基づき、公共測量における標準的な方法を定め、その規格を統一するとともに、必要な精度を確保すること等を目的に国土交通大臣が定めることができるもの。
地震時地盤災害推計装置 スグダス (SGDAS：Seismic Ground Disaster Assessment System)	現地の被害情報がまだ入手できない地震発生後概ね15分以内に、斜面災害、液状化といった地盤災害が発生した可能性を、震度と地形等の地理的特性との関係から自動的に推計し、災害対策本部等へ提供する装置。
地理院地図	地形図、写真、標高、地形分類、災害情報など、国土地理院が捉えた日本の国土の様子を発信するウェブ地図。国土地理院が整備する様々な地理空間情報を閲覧できるほか、それらを3D表示にすることもできる。地理院地図で提供している地図データ（地理院タイル）は、様々なウェブサイトやアプリケーションソフトウェア等で利用することができる。地理院地図のソースコードも、オープンソースとして公開している。
地理空間情報活用推進会議	地理空間情報の活用について、関係行政機関相互の緊密な連携・協力を確保し、総合的かつ効果的な推進を図るために内閣に設置された会議（内閣官房副長官（政務及び事務）を議長とし、関係府省の局長級より構成される）。同会議において第4期の「地理空間情報活用推進基本計画」が検討され、令和4年3月に閣議決定された。

用語の名称	用語の解説
電子基準点リアルタイム解析システム（REGARD：Real-time GEONET Analysis System for Rapid Deformation Monitoring）	全国に設置した電子基準点のデータをリアルタイムで解析し、海溝型巨大地震のマグニチュードや断層モデルを即時に求め、防災関係機関に情報提供する手法。マグニチュードや津波の予測高さの過小評価を防止し、避難活動等に役立てることができる。
電子国土基本図	電子地図上の位置の基準である基盤地図情報の道路、建物等の項目と、これまで地形図に表示してきた植生、崖、岩、構造物等の土地の状況を表す情報とを統合した地図情報、デジタル空中写真を利用したオルソ画像及び居住地名、自然地名等に位置情報を付与した地名情報の3種類の情報で構成し、日本の国土の情報を一体的に整備する。
統合災害情報システム（DiMAPS：Integrated Disaster Information Mapping System）	災害発生時に各情報源から提供される各種情報（現場情報や被害情報、各種支援活動情報）を集約し、リアルタイムに電子地図上に統合表示して共有し迅速に把握することができるシステム。
ハザードマップ	洪水、内水氾濫、高潮、地震災害（津波、液状化、揺れやすさ等）、土砂災害、火山噴火などの自然災害に関して、災害の危険箇所や危険の程度、防災に関連した避難場所等の施設や避難経路等、災害に適切に対応するための情報を総合的に表示した地図。平成20年3月に作業規程の準則の応用測量における主題図に位置づけられた。
光格子時計	レーザを用いて効率的に原子を閉じ込めるエネルギー場（光格子）を作り、その中の原子の振動数を計測することで正確な時刻を計測する装置。2地点間に設置した時計の相対論的な時間の遅れから、2地点間の標高差を正確に求めることが期待されている。
量子重力計	原子干渉を用いた次世代型の測定装置で、真空槽内でルビジウム原子を自由落下させて重力値を求める絶対重力計。従来のコーナークューブを自由落下させるタイプと異なり機械的な構造がないため、取扱が容易で可搬性に優れ、屋外での運用も可能である。
AI：Artificial Intelligence（人工知能）	コンピュータを使って、学習・推論・判断など人間の知能のはたらきを人工的に実現するための技術。
GNSS：Global Navigation Satellite System（全球測位衛星システム）	地球を周回する人工衛星からの信号を用いて位置を決定する衛星測位システムの総称であり、米国の運用するGPSが代表的。GPS以外にも、我が国の準天頂衛星システム、ロシアのGLONASS（グロナス）、欧州連合のGalileo（ガリレオ）等がある。

用語の名称	用語の解説
GNSS連続観測システム (GEONET : GNSS Earth Observation Network System)	全国約1,300か所に設置された電子基準点とGEONET中央局（茨城県つくば市）からなる、高密度かつ高精度な測量網の構築、広域の地殻変動の監視、高精度な位置情報サービスの支援を目的とした観測システム。
SLR : Satellite Laser Ranging (衛星レーザ測距)	地上の観測局から衛星に向けてレーザ光を発射し、衛星のリフレクタ（鏡）で反射して同じ観測局に戻ってくるまでの往復時間を精密に計測することで、衛星と観測局間の距離を測定する技術。宇宙測地技術の一つで人工衛星の軌道決定や地上の観測局の位置測定に使われる。
UN-GGIM : United Nations Committee of Experts on Global Geospatial Information Management (地球規模の地理空間情報管理に関する国連専門家委員会)	国連経済社会理事会（ECOSOC）に設置された国連加盟国の専門家の委員会。地球規模の政策課題解決に求められる地理空間情報の整備と利活用に関し、国連加盟国間、国際組織、民間、学术界が議論、調整、促進する場を提供している。国土地理院は第1回会合より日本政府代表として毎回出席しており、現在、災害のための地理空間情報サービス作業部会（WG-Disasters）の共同議長を務めている。
UN-GGIM-AP : Regional Committee of United Nations Global Geospatial Information Management for Asia and the Pacific (国連地球規模の地理空間情報管理に関するアジア太平洋地域委員会)	アジア太平洋・米州・アラブ諸国・欧州・アフリカに展開するUN-GGIMの5つの地域委員会の一つ。アジア太平洋地域において地理空間情報をもたらす経済的、社会的、環境的便益が最大限発揮されることを目的として、地域レベルでの技術的・実務的な議論を行う等の活動を行っている。国土地理院は第1回総会から毎回出席しており、現在、副会長、WG1（測地基準座標系作業部会）部会長、WG2（地籍及び土地管理作業部会）副部会長、WG3（地理空間情報と統計の統合作業部会）副部会長、WG4（統合地理空間情報枠組作業部会）副部会長を務めている。
VLBI : Very Long Baseline Interferometry (超長基線電波干渉法)	宇宙のはるか彼方にあるクエーサー（準恒星状電波源）から届く電波を、複数のパラボラアンテナで受信することによって、数千キロメートルも離れたアンテナの距離をミリメートルの精度で測る技術。地球の大きさやプレート運動の様子および地球の自転の速さなどを調べるために使われる。